

第21回 教科「理科」関連学会協議会（CSERS）シンポジウム

教科「理科」関連学会協議会（CSERS）は、日本物理教育学会・日本化学会・日本生物教育学会・日本地学教育学会・日本理科教育学会・日本科学委教育学会の6学会が連携し、理科教育に関する課題について協議し、その振興に資することを目的としています。

毎年、シンポジウムを開催していますが、2016年は下記のように実施いたします。

記

1 テーマ：主体的な学びにつながる探究活動～観察・実験指導のあり方

2 趣旨

現在、中央教育審議会では、次期学習指導要領改定に向けての検討が進行しています。今回の改定では、「何を知っているか」というコンテンツとともに、「どのような能力を身に付けるか」といったコンピテンシーも重要視されています。また、理科においては高等学校で「数理探究」が新設される等、「主体的な探究活動」が一層求められます。「主体的な探究活動」は、従来も重視されてきていますが、改めて強調される意味、あるべき姿とは、どのようなものでしょうか。また、観察・実験が主体的にできているのでしょうか。教員の研修の機会は十分でしょうか。

このシンポジウムでは、「主体的な探究活動」を効果的に行っていくために、そのあり方や、観察・実験の位置付けについて考えていきたいと思えます。

（参加無料。事前申込は必要ありません。）

3 日時 2016年5月14日(土) 12:50～17:00(12:30～受付)

4 会場 化学会館(7階ホール) 東京都千代田区神田駿河台 1-5
（「御茶ノ水」駅 御茶ノ水橋口 徒歩3分）



5 プログラム

(1) 趣旨説明と基調講演・藤枝秀樹氏の紹介 12:50～13:00

2016年度CSERS議長 都築 功(日本生物教育学会・都教職員研修センター)

(2) 基調講演：藤枝 秀樹氏(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 13:00～13:50

「国の動向と次期学習指導要領の方向性について」

<休憩 13:50～14:00>

(3) 講演Ⅰ：町田 武生氏(埼玉大学名誉教授) 14:00～14:30

(生徒の研究発表を審査してきた立場から、探究活動を評価する視点について)

(4) 講演Ⅱ：山田 暢司氏(埼玉県立坂戸高等学校) 14:30～15:00

(多数の化学実験の開発や情報発信の実践から、実験を積極的に取り入れた授業について)

(5) 講演Ⅲ：増子 寛氏(日本物理教育学会・前麻布中学高等学校教諭) 15:00～15:30

(学会・研究会で行ってきた物理実験講習会を通して、教員の実験指導力向上について)

<休憩 15:30～15:50>

(6) 総合討論

15:50～17:00

問い合わせ先：都教職員研修センター研修部 都築 功 (Isao_Tsuzuki@member.metro.tokyo.jp)